

令和7年度

事業報告書



社会福祉法人 山口県共同募金会

目 次

＜はじめに＞	1
＜事業の実績＞	
1 共感できる募金の推進	
(1) 明確に説明できる目標額の設定	2
(2) 従来の募金手法の取組	2
(3) 新たな募金手法の取組	3
2 共同募金運動推進のための取組	
(1) 福祉教育による寄付文化の浸透	4
(2) 赤い羽根の P R	4
3 地域ニーズを反映した助成	
(1) 県域助成	5
(2) 地域福祉事業費助成	7
(3) 地域歳末たすけあい募金助成	7
(4) N H K 歳末たすけあい募金助成	7
(5) 赤い羽根 住民の「解決したい！」を応援するプロジェクト	7
(6) 使途の明確化	8
(7) 配分委員会の開催等	8
4 組織運営	
(1) 理事会及び評議員会等の開催	8
(2) 市町共同募金委員会との連携等	8
(3) 研修会への参加	9
(4) 県社会福祉協議会との連携	9
5 その他多様な取組	
(1) 災害等準備金の積立及び取崩し	1 0
(2) 災害義援金の募集等	1 0
(3) 被災者への見舞金の支給	1 0
(4) 民間資金による助成事業への協力	1 0
(5) 受配者指定寄付金	1 0
(6) 共同募金協力者等の顕彰	1 1

＜はじめに＞

令和7年度で共同募金運動は79回目を迎えました。人口減少に加え、物価の高騰や地域の絆の弱体化、地域活動の低下など厳しい環境の中、地域福祉の向上に向けて、市町共同募金委員会や関係団体等の皆様と共に積極的に募金活動に取り組みましたが、結果として、令和7年度の募金実績は3億200万円余（対前年度比90.9%）となり、前年度に比べ3,032万円余りの大幅な減額となりました。これは、昨年度の自由民主党からの大口寄付等の反動が大きな要因ですが、その影響を除いても1千万円を超える減額となっており、非常に厳しい状況です。

募金の方法別では、戸別募金が、人口の減少や高齢化の進行などにより減少が続いており、法人募金や職域募金、イベント募金等も減少しています。そうした中、新たな募金手法では、テーマ募金が、過去最多の16団体を認定し、募金額も過去最高の1,122万円余となったほか、「UMOUPROJECT in 山口」も、行政との連携が一段と進んだこと等により過去最高を更新する134万円余となるなど、明るい材料もありました。

一方、助成については、米不足により運営が厳しくなっていることも食堂への緊急支援や、中央共同募金会が展開する物価高騰対策の全国キャンペーンに呼応し、物価高に苦しむひとり親家庭への支援など、社会の動きに即した助成に取り組みました。また、5年目となる「特別助成プログラム」については、支援が十分進んでいない「ヤングケアラー」をテーマとし、ヤングケアラー本人の負担軽減を図るため、負担の要因となっている問題の解決に取り組む団体を支援することとしました。さらに、中央共同募金会のモデル事業を活用した『住民の「解決したい!」を応援するプロジェクト』については、市町社会福祉協議会や自治会などの協力の下、6つのモデル地区において、各地域の実情を踏まえた課題の解決に向けた活動が始まり、それらの活動に対し助成を行いました。こうした取組を通して、共同募金への理解が深まり、地域の課題解決への取組活性化へとつながっていくことを期待しています。

社会は、共同募金運動が始まった当時から大きく変わりました。福祉制度が充実する一方、時代の変化とともに地域の福祉ニーズは多様化・複雑化しており、さらに、物価高騰による生活困窮、社会的孤立、ヤングケアラー等の新たな福祉課題に加え、近年頻発する大規模自然災害にも柔軟かつ迅速に対応していくことが、現在の共同募金には強く求められています。

本会としては、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、今後とも市町共同募金委員会と一体となって、共同募金運動を積極的に推進してまいります。

＜事業の実績＞

1 共感できる募金の推進

市町共同募金委員会との連携のもと、地域の解決すべき課題等を把握し、地域住民に明確に示した上で、戸別募金や法人・職域募金等の推進を図るとともに、「赤い羽根テーマ募金」や「募金百貨店プロジェクト」、「UMOUプロジェクト in 山口」などの新たな募金手法の充実強化に取り組みました。

(1) 明確に説明できる目標額の設定

共同募金は計画募金であり、県全体で必要となる資金ニーズや公募結果等を踏まえた目標額を設定するとともに、広く周知を図りました。

○目標額	一般募金	251,940千円
	地域歳末たすけあい募金	70,660千円
	NHK歳末たすけあい募金	6,000千円
	赤い羽根テーマ募金	12,050千円
合 計		340,650千円

※募金総額：302,984千円余（前年度：333,311千円余）

(2) 従来の募金手法の取組

戸別募金や法人・職域募金等、従来の募金手法を活用した募金に積極的に取り組みました。

ア 一般募金（付属資料P2、5）

実 績：216,478千円余（前年度：248,206千円余）

(ア) 戸別募金（付属資料P5）

実 績：159,843千円余（前年度：166,436千円余）

自治会や町内会等の協力のもと、地域の各世帯に広く募金の呼びかけ等を行いました。

(イ) 法人・職域募金（付属資料P5）

実 績：31,436千円余（前年度：33,406千円余）

県共同募金会と市町共同募金委員会との役割分担のもと、それぞれ法人・職域への募金の依頼や呼びかけ等を行いました。

(ウ) 街頭募金・イベント募金（付属資料P5）

実 績：7,816千円余（前年度：8,005千円余）

街頭募金、イベント募金のいずれも減少となりました。

(I) 学校・子ども会募金（付属資料P 5）

実 績：2,670千円余（前年度：3,348千円余）

学校での募金活動や県子ども会連合会と連携した組立式募金箱の提供による募金活動が行われました。

(オ) その他（付属資料P 5）

実 績：14,711千円余（前年度：37,009千円余）

個人や団体などから寄付が寄せられました。

イ 地域歳末たすけあい募金（付属資料P 2、6）

実 績：68,386千円余（前年度：72,069千円余）

市町共同募金委員会において、歳末に支援が必要な方々のための募金活動を実施しました。

ウ NHK歳末たすけあい募金（付属資料P 2、13）

実 績：6,891千円余（前年度：4,159千円余）

NHK山口放送局において、募金の開始式を実施するとともに募金受入窓口を設置し、放送により広く募金を呼びかけました。

(3) 新たな募金手法の取組

赤い羽根テーマ募金やUMOUプロジェクト in 山口などに加え、オフライン募金が可能となったPay Pay募金の推進など、新たな募金手法に積極的に取り組みました。

ア 赤い羽根テーマ募金（付属資料P 2、7）

実 績：11,227千円余（前年度：8,875千円余）

過去最多となる16団体がテーマ募金活動団体として認定を受け、積極的に募金を呼びかけていただいた結果、過去最高の募金額となりました。

イ 募金百貨店プロジェクト（法人募金の内数、付属資料P 8）

実 績：6,009千円余（前年度：6,498千円余）

企業・団体等が、“寄付つきの商品・企画”を販売し、売上の一部を赤い羽根共同募金に寄付する「募金百貨店プロジェクト」について、新たに1事業者と協定を締結しました。

ウ UMOUプロジェクト in 山口（法人募金の内数、付属資料P 8）

実 績：1,349千円余（前年度：1,129千円余）

使われなくなった羽毛製品のリサイクル収益を寄付金とする「UMOUプロジェクト in 山口」の推進に市町共同募金委員会と共同で取り組みました。新たに山口市のリサイクルプラザでも回収が始まるなど、行政との連携が一段と

進み、募金額も過去最高を更新しました。

▽スポーツクラブNAP秋祭りへの出展（10月19日）

※山口県立大学学生サークルMEP（未来を笑顔にプロジェクト）協力

エ ガチャガチャ募金（一般募金の内数、付属資料P8）

実績：1,008千円余（前年度：1,186千円余）

新たに山口県PR本部長ちよると赤い羽根をデザインしたコラボ缶バッジを作成しました。

オ PayPay募金（一般募金の内数）【拡充】

実績：141千円余（前年度：1千円）

令和7年10月から、新たに「PayPay」のQRコード決済による募金ができるようになり、街頭募金等での利用を進めました。

2 共同募金運動推進のための取組

共同募金運動の一層の推進を図るため、福祉教育による寄付文化の浸透を図るとともに、様々な場面や機会を活用して赤い羽根のPRに努めました。

(1) 福祉教育による寄付文化の浸透

寄付文化の浸透を図るため、MEPと連携し、赤い羽根を活用した福祉教育に取り組みました。

▽地域における普及活動等

- ・山口市共同募金委員会推進委員会で共同募金の現状説明等（8月6日）
- ・秋穂児童クラブ出前授業（8月21日）※MEP協力
- ・周防大島町立東和小学校出前授業（9月2日）
- ・上関町の民生委員に地域歳末たすけあい募金の説明（11月21日）

(2) 赤い羽根のPR

赤い羽根共同募金運動の気運醸成を図るため、赤い羽根の着用を促進するとともに、様々な場面で赤い羽根が目に触れる環境づくりを進めました。

ア 赤い羽根キックオフイベントの実施（10月1日、ゆめタウン山口）

ゆめタウン山口において、キックオフイベントを開催しました。

イ きららでキラリ！県民つながるフェスタへ出展（10月25日、きらら博記念公園）

県民活動団体や中間支援組織による体験・交流・展示の場「県民つながるフェスタ」にテント出展し、共同募金の普及啓発と募金活動を実施しました。

ウ 寄付金贈呈式等を活用したPR

寄付金贈呈式や助成金交付式を実施しました。

エ 赤い羽根着用の働きかけ

一般住民と接する機会の多い金融機関の窓口職員や、放送を通じてPRできるマスコミ関係者に対して、運動開始時の赤い羽根着用に働きかけました。

オ オリジナルバッジ等によるPR

レノファ山口FCの協力を得て、赤い羽根×レノ丸バッジを作成し、募金資材や赤い羽根PR資材として活用しました。

カ 赤い羽根共同募金パンフレットの作成

赤い羽根共同募金の実績や使い道を分かりやすく記載した「赤い羽根レポート2024」を作成・配布し、赤い羽根共同募金の理解促進を図りました。

キ 遺贈・相続寄付に関するパンフレットの作成

ホームページに遺贈・相続寄付のサイトを設け、山口県版のパンフレットを掲載し、広く寄付を呼びかけました。

ク ホームページ等によるPR【拡充】

赤い羽根共同募金運動や本会の事業等について、ホームページ、フェイスブック及びインスタグラムによる情報発信を行いました。

また、こうしたSNSを活用した情報発信を戦略的・効果的に行うことができるよう、市町共同募金委員会の職員等を対象に実践的な広報研修（全4回）を実施しました。

3 地域ニーズを反映した助成

共同募金の使命である地域福祉の充実を図るため、地域ニーズを的確に把握した助成を行うとともに、助成した活動の内容や成果を赤い羽根レポート2024やホームページ等に掲載し、情報発信に努めました。

また、「特別助成プログラム」により、これまで取組が進まなかった課題の解決に向けた重点的な支援を行うとともに、中央共同募金会のモデル事業を活用し、地域の実情やニーズ等を踏まえた新たな助成プログラムの開発に取り組みました。

さらに、米不足や物価の高騰という喫緊の課題に対応するため、「こども食堂ごはんプロジェクト」や「物価高騰の中で温かい年末年始を過ごすための支え合いキャンペーン」に取り組み、社会の動きに即した助成を行いました。

(1) 県域助成

ア 公募助成（付属資料P9～10）

実績：33件 28,770千円

(前年度：21,420千円、内1,240千円はNHK歳末から充当)

関係団体等への通知や本会ホームページへの掲載等を通じて幅広く広報し、適切な助成となるよう努めました。また、配分委員会における意見等を助成団体にフィードバックし、活動内容等の充実に向けた支援を行いました。

イ 特別助成プログラム

事業費：4,000千円（前年度：8,000千円）

これまで「ひきこもりの人」と「ヤングケアラー」を対象としていましたが、5年目となる令和7年度事業（令和8年度実施分）については、対象を「ヤングケアラー」に絞って、ヤングケアラーの負担軽減を図るため、その要因となっている課題の解決につながる活動を支援することとしました。

《参考》

令和6年度事業（令和7年度実施分）：14件 4,870千円

(ア) 「ひきこもりの人」を支える赤い羽根プロジェクト

団体名	所在地	活動内容	助成額(円)
えこの里	防府市	居場所づくり、就労移行支援	500,000
Besideびさいど	宇部市	居場所づくり、交流会、家庭訪問等	90,000
NPO法人 ふらっとコミュニティ	宇部市	勉強会、居場所づくり	500,000
ミニサロン沖の原	防府市	居場所づくり	100,000
曽根地区福祉の輪づくり運動推進委員会	平生町	ふれあい推進員の研修会	70,000
NPO法人 シンフォニーネット	下関市	相談・居場所づくり	300,000
(福)共生の里	下関市	支援スキル向上セミナー、当事者向けセミナー	500,000
(福)扶老会	宇部市	支援スキル向上研修、就労支援、相談対応等	500,000
山口県きらら会	防府市	居場所提供、就労訓練	250,000
NPO法人 NO BORDER	光市	居場所づくり、学習支援	500,000
NPO法人 NEST	下関市	居場所づくり、農業体験	300,000
計			3,610,000

(イ) 「ヤングケアラー」を支える赤い羽根プロジェクト

団体名	所在地	活動内容	助成額(円)
さばっこの会	防府市	フードパントリー	300,000
NPO法人 コネクト・ワン	周南市	居場所づくり、相談対応、食事支援等	500,000
(福)下関市社会福祉協議会	下関市	支援者養成、相談対応等	460,000
計			1,260,000

ウ 赤い羽根テーマ募金助成（付属資料P 17～18）

実績：16件 11,227千円余（前年度：8,875千円余）

知的障がい者と地域社会をスポーツでつなぐ取組や長期休業期における困窮家庭への食品等の配付など、テーマ募金認定16団体が取り組む活動に対し助成を行いました。

エ 緊急支援事業による助成（付属資料P 20）

実績：2件 2,500千円（前年度：実績なし）

米不足等により運営が厳しい子ども食堂等に対し、「こども食堂ごはんプロジェクト」により緊急支援を行ったほか、緊急に支援を要する1団体に対して、緊急支援事業積立金による助成を行いました。

(2) 地域福祉事業費助成（付属資料P 11）

実績：165,733千円余 ※内17,995千円余は地域歳末から充当
（前年度：173,360千円余）

市町共同募金委員会において、地区社協や自治会等が行う小地域福祉活動に助成するとともに、新たな地域課題を踏まえた活動への助成を行いました。

(3) 地域歳末たすけあい募金助成（付属資料P 12）

実績：50,391千円余（前年度：53,379千円余）

各市町共同募金委員会において、高齢者や障害者などの支援が必要な方々に対し助成を行いました。また、一部を地域福祉事業費助成の財源に充当しました。

(4) NHK歳末たすけあい募金助成（付属資料P 14～16）

実績：6,629千円

（前年度：3,931千円、うち1,240千円は県域公募助成に充当）

児童養護施設や障害児施設等の子どもたちへのお年玉プレゼントや児童養護施設等から自立する児童に対する支援等を行いました。

また、中央共同募金会が展開する「赤い羽根・物価高騰下のいのちをつなぐ支え合いキャンペーン」に呼応して、物価の高騰に苦しむひとり親家庭が温かい年末年始を過ごせるよう支援を行いました。

(5) 赤い羽根 住民の「解決したい!」を応援するプロジェクト（付属資料P 22）

実績：2,600千円余（前年度：実績なし）

中央共同募金会の「新たな助成・募金・広報プログラム開発モデル事業」を活

用し、令和6～8年度の3か年事業で地域の福祉課題に即した助成プログラムの開発に取り組んでいます。

令和7年度は、下関市菊川地区、防府市向島地区、長門市渋木・真木地区、同俵山地区、和木町沖地区、同瀬田・関ヶ浜の6つのモデル地区において、地域からの要望を踏まえた福祉活動に取り組む団体に対する助成を行うとともに、本事業を今後県全体に展開していくための検討等を行いました。

(6) 使途の明確化

共同募金の使いみちが寄付者にしっかりと伝わるよう、ホームページやフェイスブック、Instagramにおいて、写真や動画も活用しながら、助成団体からの声や成果等について積極的に情報発信するとともに、募金実績や使途などをまとめた活動報告書「赤い羽根レポート2024」を作成し、配布しました。

(7) 配分委員会の開催等

助成の適正な実施を図るため、配分委員会による現地調査、ヒアリング及び審議を行いました。

- ・配分委員会の開催：6月6日(臨時・書面)、7月8日、8月29日、
11月25日(臨時)、3月2日
- ・現地調査：8団体、4日間
- ・ヒアリング：18団体、5日間

4 組織運営

本会の適切な運営を図るため、理事会及び評議員会等を開催するとともに、市町共同募金委員会との緊密な連携を図り、共同募金運動の一層の推進に努めました。

また、職員の資質向上のため様々な研修に積極的に参加しました。

(1) 理事会及び評議員会等の開催

- ・理事会：6月6日、6月26日(臨時)、9月10日、3月13日
- ・評議員会：6月25日、9月19日、3月23日
- ・評議員選任・解任委員会：6月16日、3月16日(決議の省略)
- ・監事監査：5月26日

(2) 市町共同募金委員会との連携等

- ・市町共同募金委員会事務局長・担当者会議

6月18日（県健康づくりセンター、オンライン併用）

8月28日（県社会福祉会館）

2月25日（県健康づくりセンター）

- ・市町共同募金委員会新任職員研修：6月10日（県社会福祉会館）
- ・広報研修「募金に繋がる広報戦略と技術を身に付ける！」（全4回）（再掲）
- ・共同募金運動推進強化特別支援事業による支援（11市町共同募金委員会）

(3) 研修会への参加

職員の資質向上を図るため、研修会等に積極的に参加しました。

ア 共同募金関係研修会等（中央共同募金会等主催分）

- ・4月24・25日 都道府県共同募金会職員会議（東京）
- ・7月8・9日 赤い羽根全国ミーティング（東京）
- ・8月21・22日 中国・四国ブロック共同募金会職員会議（松山市）
- ・9月4日 オンラインサロン「共同募金と税制」
- ・11月18・19日 都道府県共同募金会職員研修会（東京）
- ・12月12日 オンラインサロン「団体の活動を言語化するための『助成申請書』のかたち」
- ・1月23日 オンラインサロン「動画の作成、活用方法について」
- ・2月13日 オンラインサロン「市町村共募とのつながり強化のための場づくり」

イ その他の研修会等

- ・1月23日 社会福祉連携推進シンポジウム2026（PwCコンサルティング合同会社主催）
- ・2月10日 被災から生活を立て直すためのシンポジウム（県社会福祉協議会主催）
- ・3月5日 「公益信託制度」勉強会（やまぐち県民活動支援センター主催）

(4) 県社会福祉協議会との連携

共同募金計画については、県社会福祉協議会の意見を踏まえて策定するとともに、県社会福祉協議会が策定した「福祉の輪づくり運動推進県域活動計画」の推進を図るため、「特別助成プログラム」により重点的な助成を行いました。

5 その他多様な取組

(1) 災害等準備金の積立及び取崩し（付属資料P 19）

災害発生時の被災地でのボランティア活動をサポートする災害ボランティアセンターの設置・運営経費等を支援するため、令和7年度共同募金実績の3%相当額を災害等準備金に積み立てました。

また、令和6年能登半島地震及び令和7年8月豪雨水害に係る災害ボランティアセンターの設置・運営等を支援するため、全国の共同募金会と連携して、石川県と熊本県の共同募金会に災害等準備金を拠出しました。

- ・災害等準備金積立額：9,089千円（前年度：9,999千円）
- ・災害等準備金の他県への拠出：1,750千円（前年度：実績なし）

(2) 災害義援金の募集等

全国の共同募金会が実施した災害義援金の募集に協力しました。

- ・他県受入災害義援金取扱額：656千円余（前年度：4,048千円余）

(3) 被災者への見舞金の支給（付属資料P 21）

県内の風水害や火災等により亡くなられた方や住居の被害を受けた世帯に対し、見舞金を支給しました。

実績：110件 1,630千円（前年度：2,350千円）

(4) 民間資金による助成事業への協力

地域福祉を推進するための民間助成事業について、推薦等の協力をしました。

○ 中央競馬馬主社会福祉財団

法人名	施設名	所在地	助成額(円)	事業内容
(福)ピースオブマイ ンド・はまゆう	就労継続支援B型事業所 ひびき工房	下関市	880,000	エアコン取替
(福)アス・ライフ	生活介護・自立訓練事業所 アス・ライフ	山口市	1,980,000	1BOX 2700CC 車 いす対応
(福)あーす	就労継続支援B型事業所 ひこるふ	下関市	1,930,000	1BOX 2000CC
(福)祥寿園	特別養護老人ホーム 寿海荘	下関市	1,980,000	特殊浴槽設置
合 計			6,770,000	

(5) 受配者指定寄付金

指定した社会福祉法人等の公益法人に寄付をすることができる「受配者指定寄付金」については、該当がありませんでした。

(6) 共同募金協力者等の顕彰

共同募金運動の推進に功績のあった個人や団体の推薦や顕彰を行いました。

ア 厚生労働大臣表彰（2人、1団体）

表彰種別	受賞者	市町名	備考
奉仕者	大嶋千鶴子	萩市	全国社会福祉大会 令和7年11月12日 浅草公会堂
〃	上山公甫	防府市	
奉仕団体	山口市連合婦人会小郡支部	山口市	

イ 中央共同募金会会長表彰（3人、1団体）

表彰種別	受賞者	市町名	備考
奉仕者	三戸和寿	宇部市	全国社会福祉大会 令和7年11月12日 浅草公会堂
〃	渡邊茂二	防府市	
〃	向井信博	平生町	
優良地区・団体	和木町共同募金委員会	和木町	

ウ 山口県知事表彰（3人、2団体）

表彰種別	受賞者	市町名	備考
奉仕者	日高隆子	宇部市	山口県総合社会福祉大会 令和7年10月29日 サンビームやない
〃	山本憲二	萩市	
〃	中林堅造	防府市	
奉仕団体	ボーイスカウト柳井第3団	柳井市	
〃	浄土真宗本願寺派宇部小野田組仏教婦人会小野田組	山陽小野田市	

エ 山口県共同募金会会長表彰等（31人、5団体）

表彰種別	受賞者	市町名	備考
奉仕者	義原洋志	下関市	山口県総合社会福祉大会 令和7年10月29日 サンビームやない
〃	鈴木英男	宇部市	
〃	師井幸夫	〃	
〃	山下和子	〃	
〃	松山一人	〃	
〃	大野靖英	〃	
〃	近藤信昭	〃	
〃	油利直登	〃	
〃			

〃	長岡 かな江	萩 市
〃	野村 精 一	〃
〃	池 部 知栄子	〃
〃	國 重 貴美江	〃
〃	長岡 陽 子	〃
〃	青 木 明 夫	防府市
〃	田 中 芳 雄	〃
〃	山 内 順 司	〃
〃	椎 木 幸 成	〃
〃	千々松 正 俊	山陽小野田市
〃	田 中 貢 造	〃
〃	半 矢 幸 子	〃
〃	縄 田 五 月	〃
〃	上 村 篤 子	〃
〃	吉 岡 征 一	〃
〃	平 野 唯 男	〃
〃	梅 本 茂 美	平生町
〃	角 本 正 一	〃
〃	河 野 孝 之	〃
〃	正 歩 康 雄	〃
〃	木 谷 巖	〃
奉 仕 団 体	岩国市立玖珂小学校	岩国市
〃	山口県立高森みどり中学校・高森高等学校	〃
〃	長門市立日置中学校	長門市
従 事 者	松 橋 美恵子	宇部市
〃	原 田 康 平	上関町
感 謝	株式会社西日本光洋	岩国市
〃	わかやま	〃